いいとこ丸ごと！

新しい天守が輝くまち（尼崎市）

阪神・神戸

お出掛けの際は新型コロナウイルス感染予防対策に取り組みましょう。

❶ 尼崎城

新しい天守は江戸時代の絵図等を基に外観を忠実に再現。平成31年3月から一般公開され、遊んで学べる城として人気を集めています。

所尼崎市北城内27 時9時～17時（入城は16時30分まで） ¥一般500円、小・中・高校生250円、小学生未満無料 休月曜（祝休日の場合は翌平日）、12月29日～1月2日 ☎06（6480）5646 F06（6480）5746

金のふすまを背景に、忍者や武者の衣装を身に着けて記念撮影。

「各階にガイドスタッフが常駐していますので、気軽に声を掛けてください」と大西さん。

グルメ

ななないろカフェのランチ

廃校になった小学校の校舎を活用した市開明庁舎内にある「ななないろカフェ」。素材にこだわり、米と野菜は丹波篠山産、生パスタは淡路島で製造されたものを使っています。ランチはローストビーフと週替わりパスタの2種類。いずれも1,408円。

問ななないろカフェ
☎050（7132）7228

レトロな建物は映画のロケで使用されたことも。

❷ 市立歴史博物館

常設展示エリアでは、元教室を展示室に原始・古代から近・現代までの尼崎の歴史を紹介。展示は季節ごとに一部入れ替えるため、リピーターも楽しめます。

所尼崎市南城内10-2 時9時～17時（入館は16時30分まで） ¥無料 休月曜（祝休日の場合は翌平日）、12月29日～1月3日 ☎06（6489）9801 F06（6489）9800

10月2日㈯から11月30日㈫まで、初の特別展「花開く江戸絵画～城下にぎわうころに～」を開催。

清原雪信筆 篝火図

お土産

琴城ヒノデ阿免本舗のあめ

砂糖を使わず、麦芽で発酵させた米だけをじっくり炊き上げた水あめは喉に優しく、声が命の職業にファンも多い逸品。明治11年の創業以来、その味と製法を守り続けています。水あめ（1瓶260g）1,100円、あめ（5本）550円。

問琴城ヒノデ阿免本舗 ☎06（6411）0340

水あめ1瓶とあめ10本の詰め合わせを抽選で3人にプレゼント

詳細は6面のクイズへ

❸ 寺町

元和3（1617）年、尼崎城築城の際、周辺に散在していた寺院を集めてつくった町。国指定重要文化財をはじめとする文化財の宝庫です。

所尼崎市開明町3、寺町
問あまがさき観光案内所
☎06（6409）4634
F06（6409）4638

通りには尼崎城のデザインマンホール。

再建された城を起点にまちがたどった歴史を訪ねる

江戸初期に築かれ明治に入って廃城となった尼崎城。国内屈指の工業都市へと発展する中で人々の記憶から消えつつありましたが、「2年前に天守が再建され、楽しく歴史を学べるお城に生まれ変わりました」と、広報担当の大西淳浩さん。内部はVRシアターをはじめ、剣術&鉄砲体験や時代衣装扮装のコーナーなど、体験型の展示が盛りだくさんです。

実際に城の本丸があった場所に立つのが「市立歴史博物館」。昭和13年に高等女学校として建設された建物を整備し、昨年10月にオープンしました。尼崎城の後に訪れる人も多く、「尼崎城では遊びながら学び、当館ではさらに深く歴史を知ることができます」と、学芸員の楞野一裕さんは話します。

歴史博物館から往時の面影を唯一残す寺町へ。11の寺が集まる一角はゆったりとした時が流れています。都会のけん騒をひと時忘れられる、どこか懐かしい通りです。

（取材・文 県民だより編集部）

地域の皆さんによるふるさと活動をご紹介

みんなでふる活

県立山崎高校家庭クラブ（宍粟市）

生活創造科の2年生、3年生と、森と食科、普通科の1年生の約280人が所属。

「子どもには、気持ちを落ち着かせるためにいつも使っているおもちゃ」など、対象ごとに必要だと思う避難グッズを買い集め、実際にリュックに詰めて確認。

高校生の視点で地域の防災力を強化

生活創造科の2年生が中心となって、地域や校内で防災力を高めるための活動を展開しています。

ぼうさい甲子園の受賞常連校に

真下を山崎断層が通っている宍粟市の県立山崎高校では、東日本大震災後の平成24年度に、家庭クラブが中心となって防災体験活動を始めました。次の年度から全校生徒や地域の人を巻き込んだ動きへと発展し、多彩な活動を展開。ぼうさい甲子園の大賞に3年連続で輝くなど、継続的で独自性が光る内容は高く評価されています。

伝統的に、活動をけん引するのは生活創造科の2年生です。2学期から1年間、自分たちで設定したテーマに沿って学びを深め、企画を考えて実践に移します。

それぞれの立場から避難を考える

現3年生が取り組んだテーマは「みんなの避難を考える」。地域の高齢者家庭を訪問して聞き取り調査をし、個々の特性を踏まえながら一時避難所までの経路を考え、避難マップを手作りしました。「困っていることが多くて避難自体を諦めている人も。なんとか手助けをしたいと思いました」と、副会長の正木萌さんは振り返ります。

個別に作った避難マップを高齢者宅へお届け。

また、非常持ち出し品についても研究。高齢者、高校生、子どもと対象に合わせて必要な物を検討し、それぞれ一覧にまとめ、全校生徒に準備を呼び掛けました。「半数以上が実行に移してくれました」と、会長の谷口愛子さんは声を弾ませます。バトンを受け継いだ2年生はさらに進化させ、「バリアのある人」の防災について検討を始めています。

（取材・文 県民だより編集部）

活動の足跡

- 平成24年度
  防災体験活動を開始
  700人分のカレーを作ることから始めたそうです
- 25年度
  全校生徒を対象にした避難所設営訓練や地域の人への防災食講習会を企画・運営
- 27年度
  地元自治会の災害時要援護者リストを作成
- 29年度
  ぼうさい甲子園で大賞を初受賞
- 本年度
  宍粟市へ防災に関する13の対策案を提言
  学校ホームページに非常持ち出し品のリストを掲載

リストはこちら

ぜひ活用して準備してください！

幼少期から大学生までを伺った前編に引き続き、大学卒業後から知事になるまでの兵庫県との関わりを齋藤元彦知事に伺いました。

― 大学卒業後、総務省に。三重県庁、新潟県佐渡市役所、福島県飯舘村役場、宮城県庁、そして大阪府庁と、さまざまな地域で地方自治を経験された中で、改めて兵庫県を感じたエピソードなどありますか？

そうですね、やはり宮城県庁の時でしょうか。東日本大震災直後の当時、兵庫県からもずいぶんと応援してもらって、「復旧・復興をやっていくんだ」というパワーをたくさん頂きました。阪神・淡路大震災の復興を成し遂げてきた、兵庫の強さを改めて感じた出来事です。

― 震災直後の宮城。復興の様子はどうだったのでしょうか？

当時、ずいぶんとハードは整ってきていましたが、ソフトはまだまだ。特に水産加工業は、震災でいったん生産と出荷が止まっている間に、全国の水産加工業者が流通に入ってしまっていて。実家のケミカルシューズ工場も阪神・淡路大震災で生産が落ちた時に海外の靴がどっと入ってきて苦しくなって、そこから回復していくのが大変だったのを感じていたんですよね。もちろん宮城でも一番直面しているのは現場の方々ですが、自分も地場産業を支えたい、と支援にも力が入りました。

― 地場産業を大事にされているんですね。

地場産業って、靴ひとつ作るにも、パーツごとに関わっている方がいて、地域のみんなで作っている。豊岡の鞄や播磨の皮革などもそうですよね。地域全体の核となっているところがあって。だから地場産業が元気になると、地域も元気になる気がするんです。

― 他にもこれまでに気が付いた、兵庫県の魅力はありますか？

人のポテンシャルと可能性ですね。大阪府庁にいた頃ですが、2025年の大阪・関西万博で兵庫県の農林水産物や地場産業をアピールできないかと思い、可能性を探るため個人的に友人たちと兵庫県を回ったんです。その時に、丹波で農業・林業の先進的な取り組みをしている方たちや、新温泉町の合鴨農法の農家さん、六甲アイランドで地域活動に取り組んでいる方など、世代問わず、たくさんの出会いがありました。

もちろんそれはほんの一部で、そういった魅力的な取り組みが県内にはまだまだあるんだろうなと。

― これからは知事の立場で兵庫の可能性をもっと探っていくと。

そうですね。地場産業や農林水産業、その他県内各地で活動していらっしゃる方々を含め、県民の皆さんと対話をしながら兵庫の魅力や可能性を見つけていきたいと思っています。

県の広報メディア ひょうごチャンネル 知事の記者会見や県政ニュースなどを動画で配信！ ひょうごチャンネル